

# オープンデータを用いた移住先住居環境の可視化システム

NECソリューションイノベータ(株) 松本 義秀 yos-matsumoto@ti.jp.nec.com  
 東芝デジタルソリューションズ(株) 松留 貴文 matsudome.takafumi@toshiba-sol.co.jp

## 移住先を探す際の課題

日本の人口減少と高齢化を背景に、地方の過疎化が社会問題となっている。  
 都市から地方への移住はその解決方法の1つであるが、移住には様々なリスクが伴う。  
 リスクを減らすために、移住先に関する様々な情報を集めて比較検討するには手間がかかる。

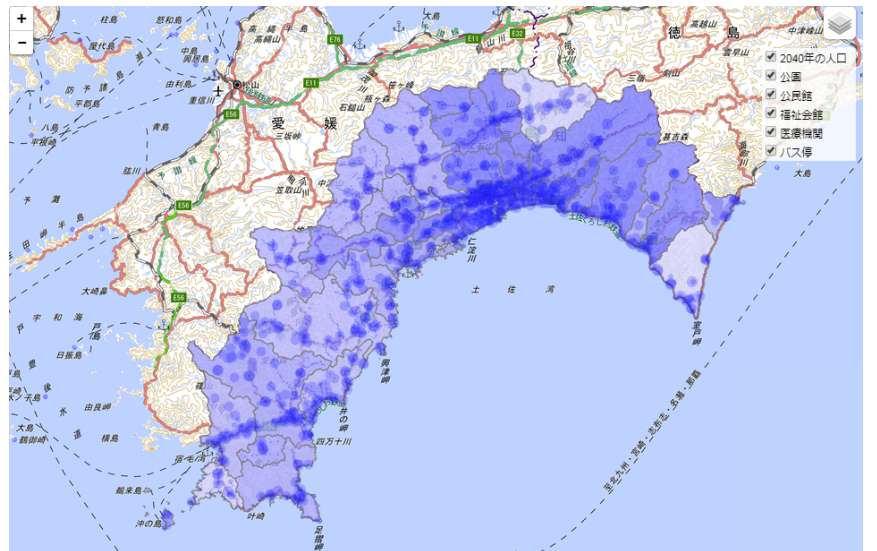
## オープンデータを用いた可視化方法の提案

政府が地方創生を目的として、RESAS(リーサス)と呼ばれる日本の地域の予測データを提供している。このような、オープンデータと地図情報を組み合わせて可視化することで、満足度の高い地域を移住希望者に提供する。これにより、移住リスクを減らし、都市から地方への移住の推進し、過疎化の問題の解決につなげる。

## 可視化の手法(誘致距離を利用した満足度マップ)

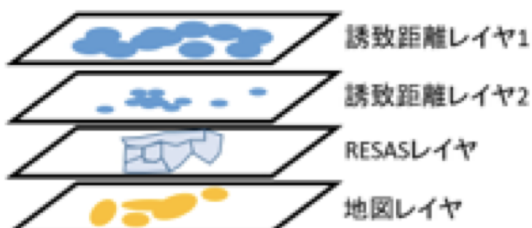
誘致距離とは、住宅と施設の距離のことである。誘致距離と満足度の関係については、過去に研究がされており、満足度を基準とした場合、誘致距離は異なる。例えば、満足度が0.8を基準とした場合、バス停留所は300m、福祉施設は800m、病院は1.7kmとなる。

本システムでは、誘致距離の情報を元に地図上に満足度の高いエリアとして可視化する。さらに、RESASの人口予測データを使うことで、将来限界集落になる地域なども可視化する。



## 地図へのマッピング

今回作成したマップは、誘致距離レイヤ、RESAS レイヤ、地図レイヤ、から構成される。誘致距離レイヤは、施設の種類ごとのレイヤで構成される。各レイヤを地図上に重ねることで、条件が重なる箇所の色が濃くなり、相関が高い箇所が一目で分かりやすくなっている。



## 結果

今回の提案するシステムでは、移住先を決定するため視点で情報を整理し、地図上で可視化を行った。

施設の種類ごとに満足度の高いエリアを重ね合わせて描画することで、重なりが多いエリアが総合的に満足度の高い移住先のエリアとして表現される。

今後は、地域の犯罪率などの可視化する情報を増やしていくことと、利用者のニーズに合わせて、可視化するパラメータを調整できる仕組みが必要と考えられる。